

谷  
繁  
作  
横  
田  
修

\*登場人物

男  
女  
緑色の存在

\* 二〇三〇年。第四次産業革命の真つ最中である。  
場所は日本。深夜。

マンションの居間のような場所。  
中央にガラクタが積んであり、各々に「廃棄」の張り紙が  
貼ってある。どうやら皆、粗大ゴミのようだ。

\* どこかに一箇所、出入口がある。  
となりの部屋に通じているらしい。玄関もその先にあるよ  
うだ。

\* 開演。

舞台上には男が一人。

男  
…

\* 男がゴミの一つを見ている。

人間のような存在が横たわっているのだ。  
全身緑色で、その背中に「廃棄」と書かれた紙が貼ってある。  
隣の部屋から女の声が聞こえてくる。

女  
そっち終わったの？

男  
まあ、大体は、

\* 男の携帯へメールが届く（音が鳴る）。  
メールをチェックする男。  
そこに女が登場する。

女  
駄目よ、写真は、

男  
分かってますよ、

女  
それにしても、素敵なおうちね、

男  
そりや、デザイナーズハウスですからね、  
あるところには、あるのよ、  
何がですか？

女  
まあ、そうですね、  
でも大丈夫、  
何がですか？

男  
だって、結局は夜逃げでしょう？家庭なんてボロボロ  
に決まってるわよ、

女  
…あの、  
何？

男  
これなんですけど、

\* 男、緑色の存在を指さす。

女  
それが、どうかしたの？

男  
人間ですかね、

女  
こんな緑色した人間がいるわけないでしょう、  
じゃあ、何だと思います？  
知らないよ、そんなこと、  
…

女  
…

\* 女、素知らぬ顔で片付けを進める。

男  
どうします、これ、（手伝いながら）  
積み込みますよ、そりや、  
その後は、

女  
さあ、捨てるところけど、

男  
んー、

女  
何よ、さつきから、

男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男  
いや、でもこれ、何ゴミなんですか？  
粗大ゴミかな、大きき的には、  
んー、

女 男 女 男 女 男 女 男 女 男  
ねえ、あんた、分かってる？  
何がですか？

女 男 女 男 女 男 女 男 女 男  
私達の仕事、

男 女 男 女 男 女 男 女 男 女  
引越し屋ですよ、

女 男 女 男 女 男 女 男 女 男  
そう、とつとトラックに荷物を積んで、この家を  
カラッポにするの、それだけ、  
分かってますよ、それぐらいは、

男 女 男 女 男 女 男 女 男 女  
……

女 男 女 男 女 男 女 男 女 男  
でも、これがもし人間だったら、

男 女 男 女 男 女 男 女 男 女  
人形でしょう、  
え？

女 男 女 男 女 男 女 男 女 男  
人形、違う？

男 女 男 女 男 女 男 女 男 女  
だとしたら、めっちゃリアルですよ、

男 女 男 女 男 女 男 女 男 女  
\*二人、緑色の存在をじいっと見る。

女 男 女 男 女 男 女 男 女 男  
まるで安部公房の『無関係な死』ですね、  
何それ？

男 女 男 女 男 女 男 女 男 女  
ある日突然、人間の死体が自分のアパートに投げ込ま  
れるんですよ、それを、なんとか片付けようとやつき  
になる話です、

女 男 女 男 女 男 女 男 女 男  
……とつと終わりにしよう、夜が明けちゃうよ、

男 女 男 女 男 女 男 女 男 女  
でもこれ、下手したら本当に事件じゃないですか？

女 男 女 男 女 男 女 男 女 男  
やめなつて、馬鹿なこと言うのは、

男 女 男 女 男 女 男 女 男 女  
僕だって馬鹿なことであつて欲しいと願ってますよ、  
願ってますけど、

女 男 女 男 女 男 女 男 女 男  
ねえ、頼むよ、竹原、  
何ですか？  
こんな美味しいアルバイト、いまどき他にないでしょ、

男 女 男 女 男 女 男 女 男 女  
う、  
じゃあせめて、家主に話だけでも聞けませんか？

女 男 女 男 女 男 女 男 女 男  
知ってるの、連絡先？

男 女 男 女 男 女 男 女 男 女  
え、知らないんですか？

女 男 女 男 女 男 女 男 女 男  
社長しか知らないもん、

男 女 男 女 男 女 男 女 男 女  
じゃあ、社長に聞いてくださいよ、

女 男 女 男 女 男 女 男 女 男  
イヤだ、

男 女 男 女 男 女 男 女 男 女  
どうして、

女 男 女 男 女 男 女 男 女 男  
どうしても、

男 女 男 女 男 女 男 女 男 女  
喧嘩でもしてるんですか？

女 男 女 男 女 男 女 男 女 男  
竹原には関係ないでしょう、

男 女 男 女 男 女 男 女 男 女  
そりゃ、僕だって関係したくないですよ、お二人の間  
のことになって、  
……

女 男 女 男 女 男 女 男 女 男  
子供ができたんだつて、奥さんに、  
はあ？

男 女 男 女 男 女 男 女 男 女  
だから、

女 男 女 男 女 男 女 男 女 男  
あー、はいはい、

男 女 男 女 男 女 男 女 男 女  
私の方が好きつて言つてたのにさあ、  
いい機会じゃないですか、潮時ですよ、

女 男 女 男 女 男 女 男 女 男  
\* 男の携帯に再びメール着信（音が鳴る）。彼女からのようだ。  
男、内容を確認する。

男 女 男 女 男 女 男 女 男 女  
……マジか、

女 男 女 男 女 男 女 男 女 男  
どうかしたの？

男 女 男 女 男 女 男 女 男 女  
もうダメかも、俺、（泣きそう）

男 女  
男 女  
今、彼女からメールが来たんですけど、実家に帰るって、

あらそう、どうして？

男 女  
なんだか、父親の具合が良くないみたいで、誰か身の回りの世話をする人がいないと駄目みたいなんですよ、

男 女  
そっか、え、それで？

男 女  
はい？

男 女  
どうしてダメなの？

男 女  
だって、もう戻ってこないから、

男 女  
(泣きだす)

男 女  
やだもう、本当にそうなの？

男 女  
よくこぼしてたんですよ、田舎で地に足の着いた生活をしたいって、

女  
じゃあ、あんたも一緒に行ったらいいじゃない、東京に居たって、どうせバイトしてるだけなんでしょう、そりゃ、そうですけど、

男 女  
いい年してフラフラしてるぐらいなら、新天地で彼女と頑張ったら？

男 女  
でも俺、飛行機代もないですよ、今、

男 女  
貸すよ、それぐらい、

男 女  
本当ですか？

男 女  
この一年、よく働いてくれたしね、

男 女  
でも、悪いですよ、そんな、

女  
水くさいこと言わないの、その代わり、今日、頑張ってもらいたいかな、

男  
はい、頑張ります、

\*二人、荷物の整理に戻る。

男 女  
それで、どこなの、彼女の実家は？

男 女  
マナウスです、ブラジルの、アマゾン観光の玄関口です、彼女のご先祖は最後の移民船でブラジルに渡った日系人で、カカオと胡椒を作ってるんだそうです、

男 女  
：はあ？

男 女  
え、本当に貸してくれます？

男 女  
いくらかかるのよ、

男 女  
安い飛行機ならサーチャージ含めて片道二〇万ぐらいですか、時期にもよります、

男 女  
無理に決まってるでしょう、

男 女  
ですよ、

男 女  
：

\*男、緑色の存在から、何かが出ているのを見つける。

男 女  
長谷川さん、これ、

男 女  
何よ、

男 女  
これ、なんですか？

男 女  
コンセントでしょう、

男 女  
ですよ、

男 女  
馬鹿にしてんの？

男 女  
こいつから出てますけど、

男 女  
：本当だ、

男 女  
家電？

男 女  
なんか、エッチなやつなんじゃないの？

男 女  
どういう意味ですか？

男 女  
知ってるくせに、

男 女  
いや、だとしたら、もう少し可愛く作るんじゃないですかねえ、

女 挿してみたら、  
男 えー、  
女 物は試しよ、（コンセントのことだ）  
男 ー、

\* 男がコンセントを壁コンに挿すと、起動音らしき音が鳴る。  
そして緑色の存在（以下、緑と表記）が動き出す。

女 あらあら、  
男 離れて！

\* 物陰に避難する二人。

緑、フラフラ起き上がると椅子に腰掛ける。すると、お腹側にも「ハイキ！」の張り紙があるのが見える。緑、見知らぬ二人に気がつく。

：あの、  
はい、

どちら様ですか？

いえ、そちらこそ、

私は、あ、や、しまった！

どうしたんですか、

むやみに人前に出るなど言われてるもんですから、

誰に？

主人に、

その、ご主人というのは／

男性ですか？

いえ、女性ですけど、

ん？そっち系？

ちよっと、黙っててください、

緑 男 ああ、すみません、  
緑 男 はい、  
緑 男 水を一杯、頂けませんか？  
緑 男 はあ、  
緑 女 自分で行けって話なんですけど、これが、あれなもので、（コンセントケーブルを指して）  
緑 女 ：充電中、もしかして？  
緑 女 ええ、あれ？（お腹の張り紙「ハイキ」に気がつく）  
女 じゃあ、私が、

\* 女、水を取りにキッチンへ。  
緑、お腹の張り紙を手にとると、じっと見る。

何かの冗談ですか？

いや、さあ、

あなたが貼ったんじゃない？

ええ、

じゃあ、あちらの方が、

来た時から貼ってありましたけど、

：

俺ら、引越し業者なんですよ、

こんな夜中に？本当に？

まあだから、夜逃げなんだと思いますけど、

：

\* 女、水を持ってくる。

どうぞ、

ありがとうございます、

\* 緑、水を飲む。実に美味しそうだ。

緑 生き返りました、

緑 よかったです、

緑 お名前は、

緑 え、あー、竹原と申します、

緑 これはご丁寧に、

緑 いえいえ、

緑 あの、

緑 はい、

緑 名前？あなたの、

緑 や、失礼しました、谷繁と申します、

緑 良い名前ですね、

緑 ありがとうございます、まあ、主人が勝手にそう呼ん

緑 でるだけなんですけどね、実際は、

緑 どういうことですか？

緑 本来、自分達は名前を持ちません、

緑 自分達って？

緑 谷繁です、

緑 ……

緑 何、谷繁って？

緑 さあ、

緑 全く、名前を付けないと気が済まない生き物なんです

緑 よね、人間というのは、

緑 ……

緑 や、失敬、

緑 あの、

緑 何でしょう、

緑 ロボット、なんですすよね、

緑 そんな風に見えます？

緑 女 だって、(コンセントを指して)

緑 女 あー、はいはい、これね、

緑 女 電気で動いてるんでしょう？

緑 女 さあ、

緑 女 え、だって、

緑 女 よく分かんないんですよ自分でも、確かに、充電が切

緑 女 れたら意識はなくなるんですけど、

緑 女 じゃあ、

緑 女 でもほら、皆さんだって夜寝る時には、意識を無くす

緑 女 でしょう、

緑 女 そりゃ、だって、寝るからね、

緑 女 私だって、寝てるのかもしれないじゃないですか、正

緑 女 直、人間とそんなに変わらないと思うんですよ、

緑 女 ー、

緑 女 ちよっと、

緑 女 何ですか、

緑 女 いいから、

緑 女 え、何？

\* 男と女、別室へ。何やらゴチャゴチャ話す二人。

緑 ……

緑 緑は「ハイキ！」と書かれた張り紙を握りしめ、泣く。その声に気づいて戻ってくる二人。

緑 男 元気出して、谷繁さん、

緑 女 ありがとうございます、

緑 女 長谷川って言いますけど、私、

緑 女 これはどうも、谷繁です、

緑 女 ちよっと今、二人で話をしたんですけど、

緑 女 なんですしょう、

女 緑 女  
あなたは何かゴミなんですか？  
はあ？

女 緑  
ですから、遺体なのか、死骸なのか、ただの粗大ゴミ  
なのか、

女 緑  
どういう意味です？

女 緑  
書いてあるでしょう、（張り紙を指す）

女 緑  
待ってください、これはイタズラですって、

女 緑  
そうなんですか？

女 緑  
見れば分かるでしょう、生きてますよ、

女 緑  
でも、それ抜いたら、（コンセントを抜こうとする）  
ダメダメダメダメ、

女 緑  
そういう契約なんですよ、

男 緑  
契約とは？

女 緑  
張り紙のあるゴミは、きちんと処分するようにつて、

女 緑  
そんな馬鹿な話があるか！

女 緑  
：

女 緑  
要するに、長谷川さん、

女 緑  
はい、

女 緑  
私が居なくなればいいんですよ、この家から、

女 緑  
まあ、そうですね、

女 緑  
出て行きますよ、全くもう！

二人 緑  
＊ 緑、部屋をうろうろすると、どこから酒を取り出し、飲み  
始める。

二人

：

男 緑  
飲みますか、一緒に、

男 緑  
いえ、

女 緑  
あの、どれくらいd？

女 緑  
え、

女 緑

どれぐらい待てば？  
ああ、そうですね、ついさっき挿したんですか？  
（コンセントだ）

男 緑  
ええ、

男 緑  
じゃあ十二時間ぐらいかな、

女 緑  
時間ないんですよ、

女 緑  
じゃあ、せめて三時間、

女 緑  
：

男 緑  
三十分！

男 緑  
それで平気なんですか？

男 緑  
まあどこか、その辺りのコンセント挿して回れば、

男 緑  
うち、来ます？

男 緑  
え、

男 緑  
どうせ行く宛もないんですよ、

男 緑  
竹原、

男 緑  
だって、なんか可哀想になつてきちゃつて、

男 緑  
ありがとうございます！いやあ、ありがとうございま

男 緑  
す、竹原さん！

男 緑  
駄目よ、

男 緑  
どうしてですか？

男 緑  
ルール違反、

男 緑  
でも、どうせ捨てるんですよ、

男 緑  
何を言いだすか分からないでしょう、

男 緑  
大丈夫です、何も見てませんし、何にも知りませんか

男 緑  
ら、あと、何にもできませんよ、私、ほんと、役立た

男 緑  
ずなんです、

男 緑  
こう言ってますけど、

男 緑  
もし社長にバレたらエライことになるわよ、

男 緑  
何ですか、エライことって、

男 緑  
バイト代ゼロ、

男 男  
緑 あー、ごめん、  
：

\*うなだれる緑。

男 緑 分かりました、抜いてください、それ、  
男 緑 いいんですか？  
男 緑 どうせ一度は捨てられた命です、  
女 緑 ちよっと待って、  
女 緑 ぬるい情けは無用です、  
女 緑 そうじゃなくて、  
女 緑 え、  
女 緑 結局その、あなたは何かゴミなわけですか？  
女 緑 知りませんよ、そんなこと！  
女 緑 でも、それじゃあ、  
女 緑 そっちで決めて下さい、適当に、  
男 緑 分かりました、  
男 緑 どうするの？  
男 緑 やっぱり、勇気いりますよ、  
女 緑 え、  
女 緑 自分で、自分が何かゴミか決めるっていうのは、  
：

男 緑 何か、言い残すことは、  
男 緑 ありません、  
男 緑 それじゃあ、

\*男、コンセントを抜こうとする。

男がコンセントに手を掛けると歌声は大きくなる。  
そのうち男もすすり泣きながら歌い出す。

女 男 女 男 緑 男 女 男 緑 女 緑 女 緑 女 緑 女 男 女 男 緑 女 緑 女  
あのさあ！  
はい、何か、  
さつき役立たずとか言ってたけど、なんか機能みたいなものは無いの？  
機能ですか？  
どういうことですか？  
だから、例えば、炊飯器はご飯を炊けるでしょう、何かそういうものでもあればね、リサイクルとか、なるほど、  
まあ、分かんないけどね、正直、売れるかどうかなんて、  
：フン、  
何にもないの？  
じゃあ、あなたにはあるんですか？  
え、  
その機能とやらが、  
私は、何だろ、  
そんな風に聞くこと自体、人を馬鹿にしてるって分かりませんか？  
でも、人じゃないでしょう、あなたは、  
むぐ、  
待って、長谷川さん、  
何？  
いや、今のは、俺たちが悪いですよ、  
：  
すみません、ほら、  
え、何よ？  
長谷川さんも謝って、  
どうして、



緑女 緑女 緑女男 緑女男 緑男 緑男 緑男 緑女 緑女男 女男

このままじゃ、俺たちのほうが「人でなし」ですよ、  
……ごめんなさい、

もつと、心を込めて、

ごめんなさい！

……

いい人ですね、お二人共、

別に、そんな、

最後に話をしたのが、お二人で良かったです、

そんな風に言われちゃうとなあ、

じゃあ、一つだけ教えましょう、竹原さん、

何ですか？

彼女とは別れなさい、

……は？

とんでもないことになりますよ、今、手を切っておか

ないと、

……

どういうことですか？

竹原さんの為を思っ言ってるんです、私は、

えーと、

（大笑い）え、何で分かるんですか、そんなこと？

ここだけの話ですけどね、私、世の中の十年先ぐらい

のことが見えるんですよ、

すごい機能じゃん！

大抵の人は信じてくれませんね、でも、主人は私の言

うことを信じたから、こんな素敵な家を建てることが

できたんです、

本当に？

なのに、なのに、非道いと思いませんか？出会った場

所は川でした、もう三十年ぐらい前になりますか、大

雨で増水した川に流された主人を、偶然近くで泳いで

女男 女男 女男 女男 緑男 緑男 緑女 緑女男 女男 女男 女 緑女

いた私が助けたんです、  
カップみたい、

カッパではありません、以来、互いに励まし合って今

日まで生きて来たというのに、あつけないもんですよ、

終わる時ってのは、

……

じゃあ私は？

長谷川さん、

今、私も恋人と喧嘩してるんですけど、

ちよつと待って、長谷川さん、

何よ、

こんなの、適当に決まってるじゃないですか、

そりゃあ、そうかもしれないけど、

私だって、摂理に背いたことだと思います、こういう

ことは、

あり得ないわよね、普通、

ですから、必要以上のことは喋りません、ただね、竹

原さん、

……

竹原さんは、ちゃんと言うことを聞いた方がいい、

どうしてですか？

貴方の命に関わるからです、

……（コンセントを抜こうとする）

だから、ちよつと待っててば！

嫌だ、抜きます、

私にだって話を聞く権利ぐらいあるでしょう！

なんですか、権利って、

ずるいじゃん、自分だけ、

聞きたくて聞いたわけじゃないし、俺だって、

デタラメなんでしょう？

男 決まってるじゃないですか、  
女 じゃあ、私が聞いたっていいじゃない、  
男 ……

\* 男、コンセントから距離を取る。  
女、谷繁に近づき声をかける。

女 谷繁さん、谷繁さん？  
緑 はい、何でしょう、  
女 そのだから、私と、私の彼氏の、未来予想図みたいな？  
男 もしかして、社長とのこと聞いてます？  
女 悪い？  
男 ただの浮気相手でしょうよ、  
女 ほっといて、

\* 緑色の存在、女をじつと見て。

緑 まず人類は、約百年後に滅ぶんですけどね、  
女 そんな先の事じゃなくて、  
緑 いやいや大切ですよ、あなたの子孫に関わることです  
から、  
女 残せるんですか？  
緑 まあ十中八九、その、今のお相手との間に、  
女 本当に？  
緑 子供は、二人、  
女 二人も？  
緑 女の子と男の子、男の子は、ちよつと耳のカタチが変  
わってるかもしれませんが、まあ問題ないでしょう、  
男 父親も、  
女 え、

女 父親も、耳のカタチが変わってるんですよ、  
男 ……  
女 えー、どうして？  
男 お相手の方ですけど、仕事運はあまり順調ではありません  
ね、程なく、お勤めの会社は倒産します、  
女 うちの会社のこと、もしかして？  
男 おい、谷繁！  
女 えー、どうしよう、竹原、倒産だって！（笑ってる）  
男 まあ、ですから生活には苦勞しますけど、お金では決  
して買えない幸せをつかめるはずですよ、その方と、  
女 ……（ちよつと泣いてる）  
男 え、何で、長谷川さん、  
女 だって子供とか、半分諦めてたから、  
男 信じるんですか、こんな話を？  
女 今まで、誰も言ってくれなかった、こんなこと、  
男 分かるわけじゃないでしょう、未来のことなんて！  
女 でも父親の耳の事まで当てたんだよ、私のこと知りも  
しないのに、どうしてそんなこと言えるわけ？  
男 とにかく、詐欺師の手口ですよ、こんなの、  
女 失礼でしょう！  
男 よく考えてください、長谷川さん、  
女 ……  
男 これは、電化製品です、  
女 そうよ、だから？  
男 自分の未来を、電化製品に托していいんですか？  
女 お察しますよ、お気持ちは、竹原さん、  
男 ……  
女 もちろん、私の言うことだって百パーセントの正解率  
じゃありません、特に十年以上先のこと につい  
てはね、



女 逃げてー、谷繁さん！

\* 女、男を突き飛ばすと、谷繁の手を引いて一緒に逃げる。  
緑、立ち止まると、再び男の元へ向かう。

緑 竹原さん、後生です、ご自身の身を案じるなら、小説  
を未来に残したいなら、今の彼女とは綺麗さっぱり／  
男 こん畜生！（ギターを振り下ろそうとする）

\* 女、緑のコンセントを抜く。  
倒れる緑。

女、再度、コンセントを挿しこむ。  
しかし、もう二度と動かない。

女 えー、どうして、  
男 元々壊れてたんですよ、だから廃棄なわけで、

\* 諦めきれない女は、緑の体を揺すっている。

男 決めました、俺、  
女 え、

男 行ってみます、マナウス、  
女 ああそう、お金は？

男 何とかしますよ、自分で、  
女 でも、いいの、本当に？

何がですか？

男 だって、別れたほうがいいって、谷繁さん、  
女 むしろ逆に、こいつの話聞いてたら意地でも別れるも  
んかって、腹が決まりましたよ、

女 よく分かんない、  
男 いいですよ、別に分かってもらえなくても、  
女 あー、もう！

\* 女、諦めたようだ。

女 でも知らなかったな、  
男 え、

女 竹原が小説書いてるなんて、  
男 ……何なんですかね、本当に、

男 だって、小説のことなんて彼女にも言っていないのに、

\* 男の動きが不意に止まる。

女 結局、分かんなかったね、何ゴミか、  
男 ……

女 竹原？竹原？

\* 倒れる男。

そして二度と動かない。

〈おしまい〉